

尊光寺報

第135号
令和4年3月

徳島県阿波市市場
町大野島字天神41
尊光寺

お焼香は一つまみ一回焼香です

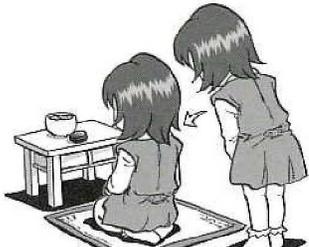
よくあるご質問に「お焼香のお作法」があります。多くの方が正解か不安になりながらお焼香をしていますか。それともそれは、お焼香のお作法は宗派によつてそれぞれ違うのですから、迷うのも無理はありません。

今回はお焼香のお作法を今一度点検してみましよう。

私たち浄土真宗本願寺派のお焼香は、一つまみ一回です。

香炉前へ進む場合の焼香の手順

①香炉の前に進み出て軽くおじぎをして、座ります。



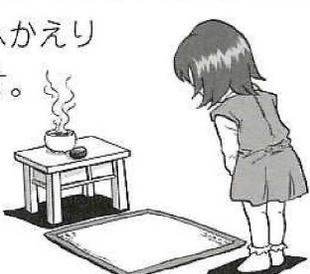
②香盒（お香の入れ物）のふたをとって右はしにかけ、お香を一回だけつまんで、いただく香をたき、香盒のふたを戻します。



③阿弥陀さまに向かい、合掌・お念仏・礼拝をします。



④静かに立ちあがって、軽くおじぎをして、もとのところへかえります。



- ①香炉 一步前で一礼し、座敷であれば座る。
- ②香盒（香が入っている容器）の蓋を取り右縁にかけ、香を一つまみして香炉にくべ、香合の蓋を閉じる。次の人がいれば、蓋はそのまま開けておく。※焼香のとき、香を高く持ち上げたり、押し頂くことはしない。
- ③合掌、両手を合わせ、「南無阿弥陀仏」とお称えし、礼拝、合掌のまま姿勢を約45度前に傾けてもどす。
- ④座敷では立ち上がり、一步下がつて一礼し、席に戻る。

これが正しいお焼香の作法です。回し焼香（お盆にのせて行かう焼香）では、上の②③の作法で行うと良いでしょう。香炉にはあらかじめ炭火を入れておくか、線香を使う場合は適当な長さの折火を付けて横に寝かせておきましょう。

そもそもお焼香とは、仏さまに香をお供えする供香の一つの方法で、仏さまへのお敬いの心を表したものです。なるべく香りの良いお香をお供えし、仏さまの世界を思わせて頂きましよう。お作法は宗派によつて異なりますが、整った作法はどこへ行つても美しいものです。

正信偈講座③

（赤い経本一五六一）

印度西天之論家 中夏日域之高僧 顕大聖興世正意 明如来本誓応機

【訓読】印度西天の論家、中夏・日域の高僧、大聖興世の正意を顕し、如来の本誓、機に応ずることを明かす。

【現代語訳】インドの菩薩方、中国日本の高僧方は、お釈迦さまがこの世にいられたその本意を示され、阿弥陀如来の「必ず救う我にまかせよ、我が名を称えよ」という本願は私たちのためにたてられたと明らかにされた。

前回までの部分は『無量寿経』というお経によつて阿弥陀さまのお救いを讃えた部分でした。ここからは、高僧方の教えによつて阿弥陀さまのお救いを讃えている部分になります。

まず、印度西天についてですが、インドのことを天竺ともいいますので、印度西天とはインドおよび西インド地方のガンダーラ方面を指します。中夏とは、中華と書くように中国のことを指しますが、古代中国に夏という王朝が栄えたという伝説に由来します。日域とは、日出ずる国といわれる日本を指す言葉です。

このように、お釈迦さまの言葉であるお経、その中でも阿弥陀如来のお救いという念仏の教えを、インド、中国、日本の高僧方が伝えてくださり、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人、そして私たちまで教えが伝わつて来たことを表しています。

この『正信偈』には具体的に七人の高僧を挙げていますので順に紹介しますと、インドの①龍樹菩薩、②天親菩薩、中国

の③曇鸞大師、④道綽禪師、⑤善導大師、日本の⑥源信和尚、⑦源空（法然）聖人の七人です。

親鸞聖人からさかのぼつて考えますと、親鸞聖人は直接に源空（法然）聖人よりお念仏の教えを伝えられ、その法然聖人は源信和尚の『往生要集』という書物を通じて、善導大師の書物に出会われ、善導大師は道綽禪師のもとで直接学ばれ、道綽禪師は曇鸞大師の功績をたたえた石碑を読んで念仏の道に入られ、曇鸞大師は天親菩薩の『浄土論』という書物を龍樹菩薩の考えによつて解釈されました。

どの祖師もその時代と地域を代表する高僧であります。同じく阿弥陀如来のお救いを慶ばれ、それぞれの時代で書物を残され、阿弥陀如来のお救いの特徴を示してくださいました。

このように見てきますと、親鸞聖人は浄土真宗という教えを私たちにいきらかにされましたが、それは師である法然聖人の教えに反して新たな教えを開かれたのではなく、阿弥陀如来のお救いをもとに慶ばれる中で、それぞれに表現する角度が異なつて見える、または、それぞれの高僧方の中にある思想を親鸞聖人がより鮮明に出されてきたことではないでしょうか。

親鸞聖人は、阿弥陀さまのお救いに出会われたことを、「ああ、この大きな阿弥陀さまのお救いは、いくたび生を重ねても、会えるものではなく、まことの信心も得ることは難しい。思いがけず阿弥陀さまのお救いに出会えたならば、遠い過去世からのお育てをよろこべ。」と記しておられます。

絶えざる求道の先に救いがあつたのではなく、私はお救いの目当てであつたと気づかされた。私からするとたまたまであつたようだが、阿弥陀如来また高僧方の数々のお導きお育ての、これでもか、気づいてくれよ、という計り知れないお手立ての中で出会えたのだと慶ばれております。

私たちも多くの先人達の導きの中で、たまたま人間として生まれ、たまたま手を合せる身の上で育てていただいております。オギャーと生まれてすぐに手を合せる身となつたのではなく、直接的、間接的に、様々なご縁の中でお育てを頂くなか、今、お念仏の教えに出会い、浄土への道を歩ませて頂いていくことを慶び、南無阿弥陀仏とお念仏を申しましよう。

庫裏改築の経過報告

昨年より続けられている庫裏の改築工事は、屋根瓦が葺かれ、現在は壁工事が行われている。



新たな庫裏の玄関は古い庫裏の大玄関の雰囲気を残し、一部古材を再調製している。古い大玄関にはソウやシシの彫刻がなされていたが虫食いの損傷が激しく再利用は不可能かと思われたが、宮大工の手によつて修理が施されよみがえっている。

法要・行事のご案内

コロナ対策のため、法要・行事の際はマスクするなど咳エチケットにご協力ください。また消毒液を置いてありますのでご利用いただき、手洗いをこまめに行いましょう。

◎ 春の彼岸会永代経法要

【3月21日(月)】午後1時 法要・法話

【3月22日(火)】午後1時 法要・法話

※22日は仏教婦人会総会を兼ねてお勤めいたします。恒例の会食はコロナウイルス対策のため中止致しますので、午後1時より、どなた様もお気軽にお参りください。西に沈む夕陽の先に、先立つた方が往かれた極楽浄土を思



い、残された我々も同じお念仏に出会い同じ浄土へと参る人生をたどって歩んでいくことを味わわせて頂きましょう。どなた様もお参りください。

【法話講師】藤井真隆 師(香川県)

2018年秋のお彼岸法要以来のお越しです。気持ちよいほどはつきりと阿弥陀さまのお救いを伝えてくださる先生です。

◎ 宗祖親鸞聖人降誕会法要ならびに門信徒総会

【5月1日(日)】午前10時 法要・法話、

引き続いて午前中に門信徒総会

【法話】副住職

浄土真宗の宗祖である親鸞聖人のお誕生法要です。私たちがお念仏が伝わってきたことを慶ばせていただきます。法要に引き続き、門信徒総会を行い、行事・会計について報告致します。

◎ 本山・大谷本願参拝団 申込はお寺まで

【日帰】5月29日(日) 朝出発 昼食・夕食付

【行き先】大谷本願(納骨・法要)、本山西本願寺、金閣寺

【費用】15000円、小学生以下5000円、

コロナウイルスの影響により本年も日帰りコースのみ設定しました。分骨納骨や法名授与などご相談ください。

本山参拝の後には、金閣寺を訪問予定。



本願寺御影堂



鹿苑寺金閣

◎ 盂蘭盆会法要

【8月15日(月)】夕方6時 法要・法話

お盆のおつとめです。どなた様もお参りください。過去帳やお位牌をお持ちになられると、奉じてお勤めいたします。個々に初盆法要のおつとめを希望する方はお寺までご連絡ください。

副住職担当、徳島新聞カルチャー教室のご案内

各講座、受講生募集中です。

■ 仏教講座『御文章(ごぶんしよう)』

「聖人一流の」。浄土真宗中興の祖、蓮如上人が門信徒へ宛てた手紙が『御文章』です。宗祖、親鸞聖人の念仏の教えをやさしく説かれた『御文章』を、原文に沿って読み解き、仏教とは何か、念仏とは何か、一緒に学んでまいります。

● 毎月第3金曜日 10時半～12時 月額 3300円

■ 親鸞聖人と『歎異抄(たんにしよう)』

「悪人こそが救われる!?!」『歎異抄』には昔から多くの人々の心をひきつけてやまない言葉が詰まっています。人間らしい矛盾を抱えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧に読み解きあじわってまいります。

● 毎月第2月曜日 13時半～15時 月額 3300円

【教室・申込先】

徳島新聞カルチャーセンター 徳島本校
徳島市寺島本町西1-5 アニコ東館7階

TEL 088-611-3355

徳島新聞カルチャーセンターは、徳島本校(川内)と徳島駅前校(アニコ九階)がひとつになり、徳島駅前アニコビル七階に移動し、新しく徳島本校としてスタートしています。



Tokushima Shimbu CULTURE CENTER

令和4年 年忌表

令和4年の法事と亡くなった年

1周忌	令和 3(2021)年
3回忌	令和 2(2020)年
7回忌	平成28(2016)年
13回忌	平成22(2010)年
17回忌	平成18(2006)年
25回忌	平成10(1998)年
33回忌	平成 2(1990)年
50回忌	昭和48(1973)年
61回忌	昭和37(1962)年
100回忌	大正12(1923)年
150回忌	明治 6(1873)年
200回忌	文政 6(1823)年
250回忌	安永 2(1773)年
300回忌	享保 8(1723)年

過去帳やお位牌をご覧ください。

春の彼岸会永代経法要

三月二十一日（月曜・春分の日） 二十二日（火曜）

両日とも午後一時より お勤めと法話

※ 二十一日は、仏教婦人会総会を兼ねてお勤めします。新型コロナウイルスの影響により恒例の会食を行わず、法話後のお茶と総会議事といたします。どなたさまもお気軽にお参りください。

法話講師：本願寺派布教使・丸亀市真相寺ご住職

藤井真隆 師

藤井先生は2018年秋以来のお越しです。気持ちいいほどはつきりと阿弥陀さまのお救いを伝えてくださる先生です。ご一緒に仏さまのお慈悲に耳を傾けましょう。

コロナ対策のためにマスクをしてお参りください。本堂には消毒液を置いてますのでご利用ください。本堂はほどよく換気されております。

尊光寺 阿波市市場町大野島字天神四一



五月一日（日）

午前十時より お勤めと法話
続いて午前中に門信徒総会

どなたさまもお気軽にお参りください

宗祖しゅうそ親鸞しんらん聖人しょうにん降誕ごうたん会え法要

浄土真宗の宗祖、親鸞聖人のお誕生をお祝いし、この私に南無阿弥陀仏の念仏が届いていることを喜ばせていただきましょう。

法話 副住職 赤松信映

どうぞ どなたさまもお参りください。

浄土真宗本願寺派 尊光寺



2022 (令和4) 年
尊光寺 行事案内



3月21日	午後 1時	春の彼岸会永代 経 法要 <small>ひ がん え えいたいきよう</small>
3月22日	午後 1時	春の彼岸会永代 経 法要 <small>ひ がん え えいたいきよう</small> (仏教婦人会総会を兼ねます)
5月 1日	午前10時 続いて午前中	宗祖親鸞 聖 人降誕会法要 <small>しゅうそしんらんしようにんごうたん え</small> 門信徒総会 <small>もんしんと そうかい</small>
5月29日		ご本山参拝旅行 (申し込みください)
8月15日	午後6時頃	孟蘭盆会法要 <small>う ら ぼん え</small>
9月23日	午後 1時	秋の彼岸会永代 経 法要 <small>ひ がん え えいたいきよう</small>
9月24日	午後 1時	秋の彼岸会永代 経 法要 <small>ひ がん え えいたいきよう</small> (仏教婦人会老人ホームお接待 準備9時)
12月17日(土)	午後 1時	報恩講法要 <small>ほうおんこう</small>
	午後 6時	報恩講大速夜・御伝 鈔 拝読 <small>ほうおんこうおたい や ご でんしょう</small>
12月18日(日)	午前10時	総永代 経 法要 <small>そうえいたいきよう</small>
	午後 1時	報恩講御満座・御伝 鈔 拝読 <small>ほうおんこうごまんざ ご でんしょう</small>
12月31日	午後11時40分	除夜会 (除夜の鐘) <small>じよや え</small>
1月 1日	午前 0時	修正会 <small>しゆしやう え</small>
毎月15日	午後 夕刻	宗祖月忌速夜法要 <small>しゅうそがつきたいや</small>
1月 9日~16日		ご本山御正忌報恩講法要

※ その他の行事は随時お知らせ致します。

皆様のご参拝をお待ちしております。

どなた様もご自由にお参りください。



2022年

ご本山&大谷本廟参拝団 募集

今年のご本山(西本願寺)・大谷本廟(納骨所、親鸞聖人のお墓)参拝団は下の通り実施いたします。年に一度の団体参拝ですので、このご縁に参拝なされますようご案内申し上げます。本山参拝の後は、定番ながらなかなか足の向かない金閣寺へまいります。

今年は新型コロナウイルスの影響を考慮して日帰りのみの案内となりました。

■ 日帰り 5月29日(日) 費用:1万5千円,小学生以下5千円

大俣スカイトラベル6:00⇒市場・八幡・土成・鴨島・徳島・板野・鳴門の各地経由⇒京都
大谷本廟10:00(納骨、法要、昼食)⇒西本願寺(参拝、おかみそり、書院拝観)⇒
金閣寺⇒淡路(夕食)⇒帰路⇒大俣21:00頃

※ 本山で帰敬式(ききょうしき)を受式希望の方は申し出下さい。(冥加金1万円)。

帰敬式とは、おかみそりを頂き、浄土真宗門徒として自覚をあらたにし、法名を拝受する儀式です。

※ 大谷本廟に納骨(分骨)を希望の方は申し出下さい。

※ 行程は天候や時間等により変更になることもあります。また観光等の希望があれば申し出下さい。

申込:尊光寺まで(0883-36-3026) 〆切5月中旬

▼大谷本廟参拝・法要



▼本願寺の親鸞さま



▲鹿苑寺金閣



▲本願寺御影堂

副住職

尊光寺 赤松信映

担当

徳島新聞

カルチャーセンター

～講座案内～

徳島新聞カルチャーセンター（徳島駅前アミコビル7階）

■ 仏教講座『御文章』 ■

ごぶんしょう

「聖人一流の～」。浄土真宗中興の祖、蓮如上人が門信徒へ宛てた手紙が『御文章』です。宗祖、親鸞聖人の念仏の教えをやさしく説かれた『御文章』を、原文に沿って読み解き、仏教とは何か、念仏とは何か、一緒に学んでまいりましょう。

毎月 **第3金曜日** 10:30～12:00 月額 3,300円

徳島新聞カルチャーセンター（徳島駅前アミコビル7階）

■ 親鸞聖人と『歎異抄』 ■

しんらんしょうにん

たんにしょう

「悪人こそが救われる!?!」『歎異抄』には昔から多くの人々の心をひきつけてやまない言葉がみつまっています。人間らしい矛盾を抱えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧に読み解きあじわってまいりましょう。

毎月 **第2月曜日** 13:30～15:00 月額 3,300円



【申し込み先/教室】

徳島新聞カルチャーセンター徳島本校

〒770-0831 徳島市寺島本町西1-5 アミコ東館7F

TEL:088-611-3355

どなたでもお申し込み頂けます。



Tokushima Shimbun
CULTURE CENTER